

© The Tiffen Company, 2000

KODAK Gray Scale

C

Y

M

Kodak
LICENSED PRODUCT

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



志斐賀他理

上

リ渡
1160
1



少波
1.160
1-2



志斐賀他理序

天御中主

天御中主

現身能人登將有限波必不知互加奈波邪

流事有利其波此世乃最初仁天御中主

神騰奉稱神御座其御靈爾賴而高御產巢

日神神產巢日神騰奉稱二柱神成出坐互

天地萬物乎母鎔造良斯蒼生諸乎惠賜比

幸賜幣留幽致又顯明事幽冥事二途能差

明治四十年十二月五日
久野太郎 氏書

別ダメ。マタカケマクモカレコキ。又掛畏伎。

皇祖天神能スメモオヤアマツカミノ神勅乃隨意我ミコトノリノマニマ。ワガ

皇孫命迺天津日繼能天地之共變羅世賜スノミマノミコトノアマツヒツギノアメツチノムタカハラセタマ

布事無久臣登志天波貳心袁不懷明支淨フコトナクヤツコトシテハフタゴコロヲオモハズアカキキヨ

伎心持互可奉仕道理又人迺此世爾生出キ。コ。ロ。モ。チ。テ。ツカヘマツルベキコトワリ。マタヒトノ。コノヨニナリイヅ

類波本來產巢日神乃廣伎厚支御恩賴仁ルハモトムスビノカミノヒロキアツキミタマノフユニ。

依禮累由緣又死去而後靈魂能行方奈杼ヨレルユエヨレマタミマカリテノチ。タマノユクヘナド

是叙然例婆餓有人能味物乎求留賀如久コレゾサレバウエタルヒトノタメツモノヲモトムルガゴトク。

薩男能獸遠追布二山乎不見我如久聊母サツヲノシヲオフニヤマヲミザルガゴトクイサカモ

傍袁不顧唯一筋尔此真道乎知覺利將得カタハラヲカヘリ。ズ。タビヒトスヂニ。コノマコトノミチヲサトリエム

事鳴奈毛可念事那類袁然有事登母念比コトヲナモ。オモフベキコトナルヲ。サルコトトモ。オモヒ

多杼羅受互我世乃限默止居流波譬喻婆タドラズテワガヨノカギリモダヲルハ。タトヘバ

我家迺成出多留初波何有兼等毛思波受ワガイヘノナリイデタルハジメハ。イカナリケムトモ。オモハズ

又我遠祖能高伎勲績乎母知良受又人乃マタワガトホツオヤノ。タカキイサヲヲモ。シラズ。オマタヒトノ

無價寶得左勢多流乎將報物騰母世聚又
已羈路仁勞支長柄可住家求米天身袁母
心袁母安息賣牟物登母思不有類尔互甚
母甚母愚呆尔痛毛痛毛口惜支極美仁南
于茲吾畏友矢埜玄道主波母古今仁通曉
利内外能書策乎母精究米互世人烏良教
導久等互其所乎霜慨歎美其所袁霜哀憐

美甚清朗日尔天津御空乎見霽須我如又
千筋之系袁縵分互一仁束禰多良牟賀如
又人祖能已我真名兒之青淵仁陷溺利多
流乎手為天救助累我如甚著明二甚簡易
仁甚懇到尔說諭佐例他留此指南書序然
禮婆此真道仁依賴互無限神登君登迺恩
賴尔奉報利將此靈魂能鎮麻利袁毛將知

等。トオモフトモガラコノフミヲオキテホカニナカミチヲモトメムト念布輩。此書乎。除天外。仁捷路遠。將求登。
勢婆。セバ。イハユルキニヨリテウヲモトムルダグヒナラ所謂樹仁。寄豆魚鳥。求牟流類。比那良。
武加志。ムカシ。

明治二年之稿

皇學所講官

岡本經春誌

志斐賀他理序

天下之事。有可不必爭者。有必
不可不爭者。夫爭者。凶德也。然
孔丘爭射。孫武爭地。爭果不可
無也。我

皇祖天神。創造天地。陶冶萬物。授
君師之任於

皇美麻命。降以爲世界萬國之主。赫赫古傳。昭昭大道。存之口碑。書之方冊。萬無容疑。是我

皇國臣民萬口一論。不可不持。以爭於外國者也。而拘儒俗學。動輒曰。國之開闢。不必爭先。後也。便以野神世之事。附之於

神異不測。而彼以本宗自居。則從本宗之。彼以夷狄視我。則從夷狄之也。然而反以講禮義之末。徒進乎文明開化爲望。至其甚。則繙書弄文。風流自樂。几席杖屨。一摸擬彼。而以爲得。是以可不必爭者。爲可必爭。而以必

不可不爭者。爲不必爭也。而國體何立焉。

天胤之尊何存焉。忠孝之義何在焉。且夫支那印度之闢。先於西洋各國固也。洋夷之說曰。造物眞神。以泥土造亞當厄襪。是世界人民之祖。是欲以己國爲本

宗。以兒視世界萬國也。雖然吾聞洋夷之說。亞當厄襪之生。不於歐洲。而於亞細亞洲。亞細亞之闢也。以支那爲最第一。支那之古傳則曰。所謂三皇五帝者。皆悉本於扶桑國。夫扶桑者。卽我

神州而爲西洋所呼亞細亞洲
之地。則是支那印度西洋諸說
無外

皇國而有先闢者焉。由此觀之。
安知非亞當厄襪之生在我
神州。而其所謂亞當厄襪者。訛
傳我

神真之名也哉。且也彼傳。挪亞
之時。洪水橫流。全世界無復人
種。而支那旣無此事。況於我
國乎。夫我
神州。
造化主天御中主大神之嫡胄。
一系萬古。不啻無洪水之變。如天

一地開闢之說。

天神

天祖。口授之於

天孫。歷歷相傳。以到今日。於是乎。死生之說。幽顯之理。瞭然如火。無復待支那印度西洋之史矣。今矢塾先生之著是書。蓋有見

於此。以爲是不可以不爭於外國也。夫爭射爭地。爭之小者也。而講之者。世不乏其人。至爭天地開闢之說。則寥寥乎希聞焉。方今

王政復古。百度惟新。

朝廷乃建三千年以還未有之

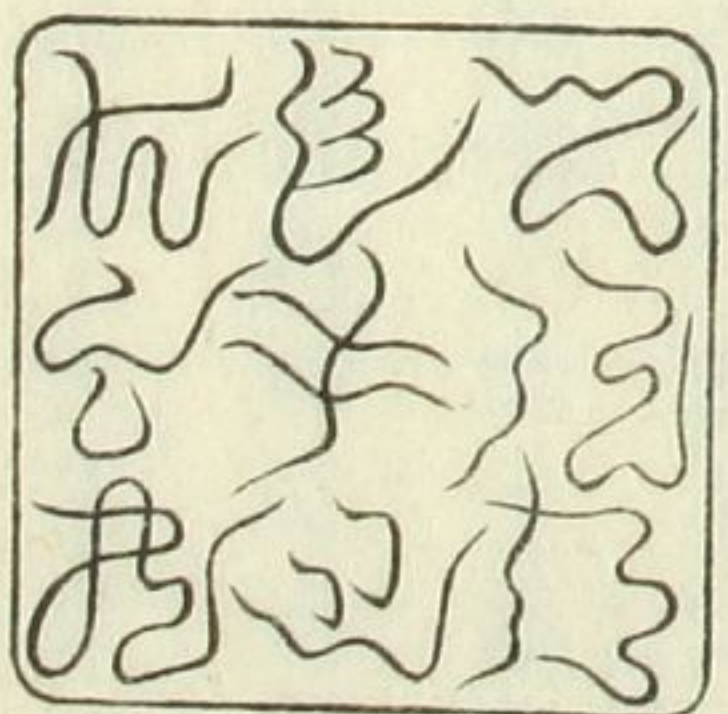
皇學所欲以弘
皇化於海外則
朝意之所嚮亦豈果無揭古傳以
莅萬國之深謀遠筭哉余既恐
拘儒俗學之不知爭以招
國辱而深喜
皇學所之有建而先生之有此

爭焉於是乎序

明治二年己巳七月

皇學所講官

渡邊重石丸撰



明治二十五年五月十日
 皇學所講官 平玄道敬記
 此世の始め未と天地も日月星も無の時よ高天原と
 謂も北極紫微宮也云所天御中主大御神と稱奉る大
 神のおとしまし其いも貴く奇異な御神徳小因て高皇
 産靈大神神皇産靈大神と申奉る男女二柱の大御神成出賜
 ひ此二柱の實は甚も奇小妙なる御神徳は因て大虚空の
 中小其形状言ひ難き一物を成出賜ひその後此を天日や
 大地は分ち賜へり此を天地初判の時といふこの三柱大神

志斐賀他理上之卷

皇學所講官

平玄道敬記

○三柱大神の天地及八百万神等を產生し賜ひし由也
 此世の始め未と天地も日月星も無の時よ高天原と
 謂も北極紫微宮也云所天御中主大御神と稱奉る大
 神のおとしまし其いも貴く奇異な御神徳小因て高皇
 産靈大神神皇産靈大神と申奉る男女二柱の大御神成出賜
 ひ此二柱の實は甚も奇小妙なる御神徳は因て大虚空の
 中小其形状言ひ難き一物を成出賜ひその後此を天日や
 大地は分ち賜へり此を天地初判の時といふこの三柱大神

七。獨神成ヒカリカミナリまして。御身ミミを隱カクし賜たまひき。

一物ヒツモノやと。顯アハふふり難ガタふふ。男女オトメ合アヒ婚ハヒの状サマありし事コト。まま後ノチ天アメ日ノヒの御国ミクニをを。高天原タカマハといふよし。まま一物ヒツモノの大空オホソラ中ナカに漂蕩タタひし時トキ。謂イハゆる五十音イツパノコエの出來イし説コト。又天御中主アメノナカヌシ大神オホカミ故漢土カラクニ小こてい。上皇太一ウヘノミコ。まま上ウ大乙オホニギハヤヒと申奉ウケマツル。西洋セイヨウ小こてい。祁ヤマト余ノ夫ノ天神アメノカミ也ナリ申ウケマツル。高皇產靈タカミムスヒ大神オホカミを漢ミコト。盤古イハノコ貞王サカヒノミコ。神皇產靈カミムスヒ大神オホカミをを。大元聖母オホタマシノハハと申奉ウケマツル。天竺テンダク小こてい。大梵自在オホソノノミ天神アメノカミ。まま摩醯首羅天マシムラテン。嚕捺羅天ラナラテン。第六天魔王ダイロクテンマウおど申ウケマツル。委ウケマツルき師説シトク有アル。古史傳コシデン。まま赤縣大古傳セキケンダイコデン。印度藏志等インドゾウシトウ小付コツケて見ミふふ。或人アルヒト古の隱身カクレミは。かかクリクリ三ミと訓コトむむ。修シユししといいふ

る説セツあり。そも由ユかかきき小こたたああ。現事ウツレト幽事カクリコト也ナリ相對カウシひ。現世ウツレヨ隱世カクリヨと對カウひ。現国ウツレクニ隱国カクリクニと對カウへへ。現身ウツレミ小對コカウてて隱身カクレミ也ナリ。ふ詞フコトも。必カナラず有アル。必カナラず有アル。思居オモイしし。靈異記レイイキ故見コトれれ。聖德太子セイトクの御事ミコトを。聖人セイトウ云イハ通眼見ツウガンミ隱身カクレミ也ナリ。行基ユキが事コト故コト。於日ココロ本國ホクニ是化身聖也コト。隱身カクレミ之ノ聖セ矣ナリとと。隱身カクレミ也ナリ。いいふふ。今記イマキして一説ヒツツク小備コトるる。小なむ。

さされれ。玉鉾百首タマボウヒャクシュ。諸乃成モロノナリといいづづるる本ホ。神カミむむ。高御產日タカミムスヒの神カミの產靈ウツレミとと詠ユメれれ。美牟須毘ミムスビ也ナリ申ウケマツル。語コトの本ホは。宇牟須毘ウムスビ也ナリ。凡スベテ物モノ故コト生成ナスを牟須ムスといいひひ。世ヨも息子ミスコ息女ミメおどいいひひ。萬葉集マンヤクシュに歌ウタ。山行ヤマユキ。ばば草むクサム。屍カネままと河カハの上ウヘ。湯津石村ユツシタ。草

むさびやも。姫嶋コメシマの小松コノマツが宇陀ウヂに。苔コケむらまきムラマキふあど多く詠ヨみ。古今集コノイハ小君コノミコの代ノも。千世チヨは八千世ヤチヨ小コ或ハハハまマしシさサづヅれレいイしの。石穗イソホと成ナりて。苔コケむらまきムラマキをシをセて。詠ヨむと聞キゆ。あどいへる如スく。生産ウミナスの義ヨロ比ヒは靈妙ウシビの義ヨにて。天ツ日も燃モユる火ヒも。皆キ奇キ妙ミウれるより負オへる稱ナあり。はれば此コノ大御神オホミコトハ八百万神ヤチマンノカミをも。世界ヨノナカノヨロツノモノ万物モノをも。御生オウミイダシ出賜イダシへる。いやくクズ奇キく妙ミウある大御神オホミコト也申ナに御名ミナ有りナ。即スナハチ日本紀ヤマトノミコト小皇産靈オホミコト也云ナふ字ジを充賜アテタテへるが能當ヨラフタ又神魯岐命カムロギノミコトカム神魯美命カミルミノミコト也二柱ニハシラ彦神ヒコノカミを申マウし奉オホシるも全オホシ義ヨロの由ヨ。先師等サキウシトナリ此説コトあり。或ハ高タカと申マウは、健ツクき由ヨ小コて。男神オノカミ及ナ牟ム活カクきて。女神メノカミ及ナ大地オホツチを申マウせり。まマと此コノ大御神オホミコトハ。天照アマテラス大御神オホミコト。ちふ説コトも有アり。はも有アるべくベクなむ。まマと此コノ大御神オホミコトハ。天照アマテラス大御神オホミコト。

月夜見ツキヨミ大神オホカミはへも。朕ワが御祖ミオヤ也詔イリひ。殊ニり月ツキ大神オホカミ也。朕ワが御祖ミオヤ。高皇産靈タカミムスヒノカミ尊ノカミ也。豫ヨ小コ。天地ツチノナカ以ヨリ造ツクリし賜イタサ予ニ御功ミコト有アり也詔イリ予ニ。此コノ元モトと高皇産靈タカミムスヒノカミ尊ノカミ神皇産靈カムヤマトノミコトノカミ尊ノカミと詔イリひ又日ヒ大神オホカミの御詔ミコトノミコト小コ也。天地ツチノナカ以ヨリ造ツクリし賜イタサ予ニ御功ミコト有アり也詔イリ予ニ。徳トク何ナニゆとは詔イリひけむを。前文マヘノミコト小コ讓ユカて。略ツク予ニるから。まマと皇産ミムスヒノカミ靈ノカミ大御神オホミコトの御詔ミコトノミコト小コ御子ミコ千五百座チイホバシラませり。詔イリ予ニる也。日ヒ大神オホカミ。月ツキ大神オホカミの大詔オホノミコト也相アヒ符フふが上ノみ。神代卷カミヨノマキ口決クチケツは。高皇産靈タカミムスヒノカミ尊ノカミ於ニ高天原タカミヤ化生ナリセ万物モノ神ノカミ也と注シし。伯家部ウヂノカミ類ノカミ小コも。高皇産靈タカミムスヒノカミ尊ノカミ神ノカミ也。人ヒトの身ミ生ナし賜イタサふ神徳ミコトノトクありとあふ小コて。誰タレハ此コノ神ノカミも。天地ツチノナカ也。世ヨ小コ有アり也何ナニる万物モノも。悉コトクは此コノ大御神オホミコトの御神徳ミコトノトク小コ因ヨリて成ナ出デる。あふあど。いやく著明シラシラき小コ何ナニるばや。されど拾遺集シユイジツ小君コノミコ見ミば。

皇産靈の神ぞ。恨めし。た。おれかき人を。何つくりけむ。袂衣物
ゆのくも。造りおききこえさせけむ。む。詞花集。心さす。む。い
ほぶの神さへ。うら免しけむ。む。といひ。ひ。詞花集。心さす。む。い
ぶれ神ぞ。つくりけむ。ゆ。く。免けしき。見えぬ君。これ。とよみ。
長清集。う。ゆ。け。やら。ぬ。人の心。此。おらきより。牟須布の神を。恨
みつる。の。形。三首とも。小。皆。意。歌。う。い。何れ。ど。當。時。ま。で。は。大。神
れ。と。り。九。河。内。躬。恒。集。小。か。く。る。ふ。る。人。も。昔。も。何。れ。や。と。世
を。去。り。そ。来。此。神。は。ゆ。は。む。や。と。よ。免。る。を。此。大。神。等。故。申。せ。る
ふ。ま。と。古。人。の。御。神。德。を。辱。か。み。崇。祀。奉。じ。し。事。も。新。撰。字。鏡。り
祇。以。醜。祀。司。命。也。和。名。宇。牟。須。比。万。豆。利。と。見。え。此。祭。の。事。他。の
當。ら。ぬ。故。小。若。く。は。宮。能。賣。祭。ふ。お。の。大。神。等。を。祭。奉。る。こ。と。執
政。所。抄。り。見。え。る。を。バ。此。を。謂。す。る。や。と。久。し。く。思。涉。し。小。そ
て。非。二。條。良。基。公。の。言。談。抄。小。結。祭。は。晦。日。人。家。に。い。ふ。所。の。事
と。て。

あり。六條宮後中書王結祭をして。饗膳を設けける。産靈祭其作法
尋ぬ。と。何。ふ。り。て。知。ら。れ。ぬ。也。後中書王は。村上天皇の
古の御代。小。右。此。御。祭。も。存。り。か。ま。け。り。け。る。良。基。公
と。逆。賊。足。利。氏。と。親。く。て。謂。ゆ。北。朝。御。代。頃。の。人。お。れ。バ。此。頃
を。已。小。徧。く。は。行。か。く。て。天。日。御。国。小。宇。麻。志。阿。志。訶。備。比。古。遲
れ。ざ。り。し。と。見。ゆ。か。く。て。天。日。御。国。小。宇。麻。志。阿。志。訶。備。比。古。遲
大。神。也。天。底。立。大。神。と。成。坐。し。大。地。に。底。に。根。国。成。り。て。国。之。底
立。神。也。豊。斟。淳。神。と。二。柱。成。坐。り。右。の。神。等。も。獨。神。成。ま。し。て。御
身。に。隱。し。賜。り。此。大。地。小。十。柱。成。坐。る。中。に。神。伊。邪。那。岐。大。神。
神。伊。邪。那。美。大。神。成。坐。り。ち。て。皇。産。靈。大。神。の。天。御。国。を。造。固。め
給。ひ。し。時。に。天。瓊。戈。に。其。中。心。と。爲。て。天。の。樞。軸。を。成。賜。ひ。し。小
因。り。天。日。御。国。に。其。所。を。遷。易。じ。永。久。に。右。旋。り。巡。環。る。事。と。成

て其極々大小至て明々極て剛く鋭く。純粹なる氣勢小引き
けり。謂ゆる五星故初諸星等も。此大地も其故中央也。て常
小巡環けり。暫時の間も休息む期有るおとけし。委くは古史
曆傳及鎔造化育論。是を以て古事記表文小。乾坤初分參神爲
等。就て見るべし。造化之首と記されしあり。

○神伊邪那岐伊邪那美大神。万物を生賜ひしこと也。

神伊邪那岐大神。伊邪那美大神。妹妹二柱相共小。高天原ある。
皇産靈大御神の御所小。參上坐て。御教を受けたまふ時。大
御神の御言以て。天瓊戈を賜ひて。此のむらよるは国城。修
理米固め成せ也。詔賜ひて。事寄。賜牙也。此天瓊戈は。即雄
元の像形せる物小。

て漢土小此を天根玄牡と稱ひ。玉もて飾と物物小。皇祖
天神の御靈を授奉坐せる表物とて。賜牙る物れるおとけし。
此詔り大地故造固免夫。小幸牙賜ふ神等を生成し終ふ
を此ことす。を依り終へるおとけし。中此は。盡しがとけし。古
史傳又就て。あく小二柱大神。天の浮橋は御立まして。其瓊戈
を見依べし。青海原故畫賜牙也。鹽土をろ。土をろ。畫鳴して。
引上げ賜ふ時小。そ此戈の末と垂落る潮自然小凝積りて。
嶋と成依。是故能基呂嶋といふ。かの畫賜牙る處を。乃陰元
間成立の道也。先是。小立ちしおと青海原也。此大地を捨て
稱ふ名。よと此時より。大地の初て一日一夜。西より東。小旋
轉れる事也成りて。此を私運といひ。一年は間小天。日の外廊
を一周するを公旋といふこと。又此時は。謂ゆる五星等ハ出
来しとけし。自凝嶋の在處も。古史傳赤縣大。はて二柱大神を
古傳。おと鎔造化育論等。小因て知るべし。はて二柱大神を
此嶋小天降坐して。かの天神は賜牙りし。天瓊戈を其の嶋り

衝立て。國中此御柱也。見立まじ。此時小皇國は在る自凝嶋を
立賜ひ。玄家小謂也。大五嶽は立て。大地の鎮也。成。終ひ。此を
天柱とをいひ。漢土小稱ふ。五嶽を擬五嶽を分持ち。且四時は主
大神と申をき。神等も。此は鎮坐し。五方を分持ち。且四時は主
掌によし。ま。五嶽真形。因ちふ。祕籙也。此時小大神の大空を
天翔り。初。看坐。書記。賜。物。及。天柱。五嶽考。見。事。は
此。小。始。まり。し。極。直。下。小。崑崙山。といひ。天。皇。大。帝。の。ち。づ。より。坐。以。幽
都。の。北。極。直。下。小。崑崙山。といひ。天。皇。大。帝。の。ち。づ。より。坐。以。幽
ホ。ル。コ。ロ。ド。云。云。即。中。嶽。小。て。天。坐。久。流。と。稱。ひ。西。洋。の
作。る。物。と。小。似。通。ひ。し。由。も。大。古。傳。ま。と。此。を。案。し。て。或。人。の
合。ひ。相。剋。て。土。地。の。漸。く。小。廣。く。大。小。成。り。右。の。故。に。因。り。地。中
も。鐵。氣。潮。氣。を。含。ま。ぬ。處。无。き。由。古。史。傳。は。説。明。と。れ。土。性。辨。小
諸。金。類。は。採。集。め。て。微。細。小。解。剖。て。此。は。檢。覈。し。小。大。の。と。鍊。及
膏。等。の。粉。碎。と。石。炭。灰。白。墨。黑。炭。硫。黄。等。ま。と。土。油。礬。石。凝。水。石
燐。硝。等。の。鹵。鹹。を。混。合。せ。し。物。ま。と。土。灰。數。牙。て。ハ。土。ち。ふ。物。れ
く。且。眞。土。小。壤。土。墳。土。墳。土。比。三。種。あ。り。擬。土。小。塗。土。壘。土。砂。石

の三種ありて細分てば。四十八等。此は別何る。おと。此。御
故事より發明して委く論。了。土地を持つ。人の急務を。れ。御
必。就。る。見。八。尋。殿。を。造。ら。し。て。共。住。賜。ひ。き。殿。造。の。始。め。て。御
大。神。の。御。徳。と。作。成。し。賜。り。事。又。ま。よ。り。後。は。皇。神。等。も。宮
殿。を。化。立。賜。り。小。種。々。此。驚。く。小。堪。多。依。事。と。有。て。共。り。古
史。傳。小。ま。と。天。の。御。柱。板。行。巡。り。逢。ひ。賜。ひ。て。御。歌。を。詠。か。た。し
詳。か。り。五。言。二。句。の。御。歌。小。て。あ。れ。世。ち。て。美。斗。の。麻。具。波。比。せ。む
賜。ひ。五。言。二。句。の。御。歌。小。て。あ。れ。世。ち。て。美。斗。の。麻。具。波。比。せ。む
之。爲。給。ふ。時。鶴。鴿。飛。來。て。尾。頭。を。揺。り。以。を。看。行。し。て。其。所。爲
之。悟。り。賜。り。也。御。情。と。鳥。の。託。て。論。さ。し。免。後。子。る。御。事。と。窺。奉
ら。れ。且。諸。鳥。と。天津。神。の。御。使。形。る。由。も。交。替。の。道。を。元。天。地。交
會。の。実。態。を。傳。へ。し。道。を。興。し。賜。り。事。二。柱。大。神。を。其。道。小。由。循。坐。し。て。
始。て。夫。婦。の。道。を。興。し。賜。り。事。二。柱。大。神。を。其。道。小。由。循。坐。し。て。
か。り。万。物。ま。と。其。道。を。稟。り。子。有。ち。て。父。お。と。子。は。傳。へ。ざ。れ
ぞ。自。然。其。道。識。り。行。ひ。初。子。と。生。く。无。窮。か。ら。し。め。人。倫。の
道。此。小。端。起。る。ま。と。古。史。傳。印。度。藏。志。を。委。く。説。き。又。凡。て。玄

○志斐賀他理上

○六

妙幽吉ある事々々色。佛菩薩聖賢の徒此立る事説小率
れる倫々え知らざも此なり。然るは世界成立の根元を天
根よりと云説おどは。得信まどけき。道理の極免て深々
事々。却りて浅く思え。浅くある事は。却りて理深々
聞えて。生賢した倫を。速く信ひくも此なり。其世の学者ど
もの理深々と爲ることを多く信ひくも此なり。其世の学者ど
仕を真小活動く人の成まる始は。至りけり。形の人小給仕
系を真小活動く人の成まる始は。至りけり。形の人小給仕
て。色し其道如くは感ずむ人の聞て。人形の人小給仕
工を聞る。然るは如くは感ずむ人の聞て。人形の人小給仕
の効ある。然るは如くは感ずむ人の聞て。人形の人小給仕
薩賢聖ら説道。道蘊奥又心得る。倫の幽妙微旨佛菩薩
ものふて其祖師夫子おど云ふ徒。百千人額を集めて研究
も。古傳の眞理知らざむ限る。明らめ得まど。歌選々々
然。云。佛者ら。例此歌選々々。何の理。因。云。め。れ。ど。歌選々々
因りて生ぶる。おど。何の理。因。云。め。れ。ど。歌選々々
て。行む。終る。おど。何の理。因。云。め。れ。ど。歌選々々
域り。歸る。より。外な。事。そ。と。も。論。れ。き。ち。て。妹。妹。二。柱。相。並
ば。し。了。大。八。洲。国。始。め。嶋。の。八。十。嶋。を。産。成。し。給。ひ。大。地。を。造

成し幸子賜ふるき。八百万神をも青人草の祖。まも万物成も
産成し賜ひ。後小いや貴花。風神火神金神水神土神を産給ひき。
此五柱は主宰賜ふおとは。乃元を二柱大神の大御體小保
持賜子。此。時。り。かく。分。ら。で。い。え。何。ら。怒。幽。理。の。有。り
と。聞。え。て。か。く。五。柱。大。神。此。生。ま。し。て。此。五。物。成。持。分。て。主
治。賜。ひ。此。五。物。此。世界。小。至。ら。ぬ。く。ま。れ。く。充。満。て。或。を。凝。り。
或。を。散。り。或。は。分。れ。或。を。和。し。或。を。戦。ひ。な。ど。して。天。下。此。五
物。を。生。育。を。依。を。万。物。も。略。お。も。別。て。は。土。石。生。植。活。物。の
三種。小。て。み。お。此。五。物。の。化。生。小。非。依。り。お。た。故。り。天。下。の。物
一。せ。し。て。何。れ。り。此。五。柱。大。神。の。御。靈。頼。よ。ら。怒。物。何。る。は

しや。これぞ漢土小は。此を五行と稱し。其神をも五帝よと
 五龍とも稱し。此を明堂小崇祀す。加川御事蹟も傳たり。世
 故造立しをへて後小。天上此五帝座。よと地上の大五嶽より
 御魂を鎮まはよし傳へ。天竺小ても。古くは地水火風故四
 大也て重く貴びしを。迦毘邏仙の時。空故加牙て五大と
 せし事な也。古史傳。まよ印度藏志小見え多り。まよ右此五
 元及。万物を發生まは本ても。加此天。日の御国の天此柱よ
 といはる精神騰鹽也。地中ある国柱此靈氣硬鹽と小因る。
 此物を主宰る事等も。鎔造化育論小説あり。開た見るはし。
 かくて後故有て。伊邪奈美大神也。夜見国は神避り賜ひ。此火
 鎮火

祭祝詞り見えたる如く。現御身あがり。行幸る小て。紀小崩御の状り
 傳牙と承た。あ。一た。僻説ある由は。先師の説此如く。然れど。
 此も実ハ倭建御子尊の如く。暫時志御体を現国り留給ひし
 一。て。漢土小て謂りる尸解といふ故為給るよ。紀記二典
 の如き傳の有らむ。ま。後小伊邪奈岐大神也。相追て其夜見
 別考記せ。承物もあり。後小伊邪奈岐大神也。相追て其夜見
 国小行幸る也。そ此ハ也。汚穢なき志支国なる故。見畏坐して。
 やがて逃歸まして。筑紫の日向此立花の小戸の阿波岐原小
 幸坐し。御をぎ。穢ひし給る也。此御禊穢てふ事の起よ。漢
 え。天竺小も。百論疏。恒河小入て洗浴して。罪滅を得。故懺悔
 也。穢ふかど。何承り。皆我が皇道の弥綸せること。委し。此師説
 已。あ。已。

○天照日大御神須佐之男大神の御生坐る也
 此御禊被の時小先吹生給る神等也。大禍津日神。神直日神。速秋津日

神速佐須良比咩神也。即被戸大神多ちふて。それ悠久。鹽の八百會形。速吸名門坐して。造化の功。爲賜予。古史傳。小祓所大神等の御事。故申して。大直日神也。天照大御神。又須佐之男大神。小も和魂坐し。大禍津日神也。二柱大御神。比荒魂小坐し。あう。小。大直日神也。伊豆能賣神也。天照大御神。小属坐し。禍津日神と佐須良比賣神とは。須佐之男大神。小属坐せれど。和魂直日神也。荒魂禍津日神とは。須佐之男大神也。大御神也。小通属もまひ。伊豆能賣神と佐須良比咩神とは。分て属給のみ。よて互小属給事也。云くと。二柱大御神の御徳。故。佐け成賜予。謂を委く説れ。速吸名門とは。老子の謂也。谷神。ま。と。玄牝之門。天地の根。

或も大壑无底の谷と。百谷王とも。朝夕池也。いひて。此大地の雌元の處。ふて。あら。ち。る。海潮也。此は會同して。其清潔。あるは。地脈より。諸山脈水脈へ。配分し。給ひ。尚。其他を。火脈。小送りて。焼失ひ。尚。其餘を。夜見。国。小。い。ぶ。き。送。ち。て。遂。は。佐。須。良。比。咩。神。の。ま。ま。に。此。大神等。此。御。功。徳。に。因。り。て。海。水。を。月。国。小。引。く。事。を。成。れ。る。な。り。大。祓。の。事。は。け。て。後。小。志。加。り。坐。し。大。綿。津。見。大。神。也。申。し。三。柱。ま。と。住。吉。小。祭。き。奉。る。三。前。大神。底。筒。之。男。命。中。筒。之。男。命。上。筒。之。男。命。也。申。し。を。生。坐。せ。り。此。を。大。海。原。を。悉。く。小。治。看。み。大神。也。志。加。大神。及。住。吉。大神。の。御。事。と。も。け。て。後。小。左。比。大。御。目。を。洗。給。予。ふ。に。因。り。て。成。坐。る。神。の。御。名。を。撞。賢。木。伊。豆。之。御。魂。天。疎。向。津。比。賣。命。又。の。御。名。を。天。照。坐。皇。大。御。神。也。申。奉。り。ま。と。右。御。目。故。洗。給。ひ。し。小。因。り。成。坐。せ。る。神。の。御。名。

を。月夜見命。又の御名を。健速須佐之男大神と申奉れり。傳ふの
天下の主君とよはし神を生かむと詔ひて。日の大神神代天照
生奉りまはしと何は。決て是時の事なるは。かくぞ覚ゆる。天照
大御神を生ましかぐらふ。御光美麗く坐て。天地の間小照。且
坐せり。月夜見神也。光彩大御神小亞て。明麗く坐しけり。此
の時伊邪那岐大神いとく歡し。詔く。朕は御子生み生て。生
の終り。二柱は宇都の御子得るりと詔ひ。よと朕の御子多か
れども。かくばう。靈異なる御子と何らば。此国小留め奉る
ぞき。小何らばと詔給ひて。御頭珠を。天照大御神小賜ひて。汝
命も高天原を知らせせ。事依志賜予也。

大御神の又の御名。まゝと神代の大神等も。皆御身小御光の

坐りしを。大御神等い殊に勝りて。御光華に大坐しおと。御
頭珠を賜予も。此時小己命小皇産靈大神より事寄し奉
り賜予りし。御功德を。大御神の坐よし。小因て。初免て成
就を予まして。其御稜威をぞ。悉小大御神に讓奉り賜えむ
に御志依し。且も大御神の大御代を。天足らし賜へと。壽奉
り給ひて。此御わざなること。委く古史傳小説明されぬ。依
加如し。
それ御頸玉の御名。御倉板舉之神と申し。是の時天地相去
ること。いまだ遠うらば。天の柱をもて。天上小舉奉
り賜ふ。かき天照大御神を。いやとあし。その依り賜へり

命のまふく。高天原坂知看しき。御倉板舉の神とは大御神
を辱み重み賜ひて。御倉小置して齋奉り給へるより。負坐
せる御名にて。それ大御祖命より。厚く重く仕奉賜し御事の
測奉られて。いとを恐く尊くおむさへ後より神社を穗倉とい
ひ。詔をほおらとをいひ。又神棚といふは此より起れり。と聞
也。又玉を尊ふ事。上代も勿論。漢土天竺までも。此を重
み。後事も。我皇神の道。此弥論せる。深き故あること。はを
後小。唯何とあき玩物の如く。成り往き。ちかり天地のい
まど。遠く。は。し。西土小。徴と。を。へ。き。こ。と。三。五。歴。記。よ
見え。天の御柱とは。即。天の梯。立。り
似る。物。ある。よ。と。古。史。傳。小。委。し。

この高天原を。即。天津日。此御国。ある。が。天。つ。日。は。古。説。り。葦
牙の如き物。も。え。何。が。り。て。成。終。る。物。小。と。五。星。坂。初。め。て。
大地。是。坂。中。心。と。して。終。古。は。循。環。れ。る。よ。と。已。小。略。説。つ
は。を。尚。玉。禱。よ。云。此。正。説。を。仁。明。天。皇。紀。ある。長。歌。り。茜。刺。し。

天照る国の日宮に。聖の御子ぞ。久方此。天の梯立。踐あやみ。
天降。坐し。ゆ。と。何。る。天照国。は。即。天日。坂。云。ひ。日宮。と。を。
其。中。ある。大御神の宮。坂。申し。聖。とい。日。知。れ。義。ふ。て。大御神
を。申し。御子。は。即。邇。く。藝。命。坂。申。奉。れ。り。と。も。ま。と。日。国。月。
国。を。小。印度。も。漢土。小。を。早。く。其。傳。有。り。て。印度。説。を。長
阿含起世經。見。え。漢土の説。を。雲笈七籤。小。見。也。然。れ。ど。も。其
成。し。始。の。委。き。傳。牙。ま。と。大御神の皇国。小。生。坐。し。か。つ。比。賣
神。り。坐。ま。し。事。を。ど。は。曾。て。も。得。知。ら。ば。ど。有。々。る。玉。銚。百。首
小。天照。は。や。月。日。の。影。を。志。忍。国。を。本。坂。御。国。小。仕。奉。ら。れ。め
や。諸。の。う。く。国。人。も。日。神。の。光。を。し。得。ば。如何。を。せ。む。殺

意小。言舉をされ也。漢国も。比雷賣此神の。照以国内を。あど
詠れとり。三首を取。結る意也。日月の尊く。忝地御蔭を志
き道理を。諸をみ。此本於御国小仕へぬと云。ことには有ま
何と。道理を。然る小其。謂を。思は。各。其。小
物。此。道理。か。賢。言。痛。云。立。つ。れ。ど。其。国。の。小
盡く。日。の。大。御。神。此。照。し。給。ふ。国。あ。る。物。ま。此。日。の。大。御。神。此
道。を。知。ら。れ。系。ひ。何。天津国を。此。地。等。と。り。は。遙。く。絶。えて。万
物。足。ら。ひ。備。えて。美。しく。め。で。る。地。国。を。系。ふ。と。い。神。典。り。因
りて。故。翁。等。の。説。れ。多。く。如。く。か。此。也。今。更。に。云。は。印度。も。
有。て。三。藏。法。數。に。正。法。念。處。經。小。因。り。て。五。道。を。い。ず。下。小
一。天。道。と。あ。り。て。天。者。最。高。最。上。極。大。極。尊。受。用。出。於。自。然。快
楽。莫。非。如。意。と。い。ひ。大。毘。婆。沙。論。小。天。趣。の。事。を。最。勝。最。樂。最
善。最。妙。最。高。故。名。天。趣。と。い。ふ。よ。し。印。度。藏。志。に。見。也。
は。て。こ。の。時。小。の。れ。八。百。万。神。も。千。万。国。小。己。こ。分。を。遣。さ

れし御事を。早く或人も説し如く。萬葉集卷二。柿本朝臣
の歌。天地の初めは時小。久方の天は河原。八百とろひ。
千よろづ神の。神はどひ。集ひいよして。神分り。くまろし時
小。天照は。日留女の命。天をも。知ろし。免はと云く。宅。何る小
て。知ふべく。まとのれ。謂も。五元の神も。紫微垣中は
五帝座及。大微垣の五帝座。かど小。鎮坐し。宅。何る師説。ま
と。天書。何ぞ。小傳。ま。古説。とも。城。見。て。か。此。玉。銚。百。首。り。
傳。子。は。し。か。く。宅。も。似。る。事。一。あ。ら。ど。其。よ。形。ぞ。子。知。る
事。も。何。ら。む。と。詠。ま。し。如。く。此。よ。り。か。して。八。百。万。千。万。神。を
宅。天。あ。る。八。百。万。千。万。国。は。分。遣。され。各。其。国。城。紘。御。め

以事を。押量らばよくある。

はと健速須佐之男大神小。汝命を。青海原潮の八百重坂治看
もぞし。事依一賜予ふ坂御母命の坐。夜見国小罷むと願
申し賜予む。伊邪那岐大神。さらば心の隨夜。食国を知らせ
也。詔直し給ひ。さらむ天照大御神小。御暇請して罷らむ也。白
したまひ。勅許坂得て。天津国小參上りはしき。青海原潮の八
とを。海内也。いふ小同。此国土皆。御妹の御
此大神を。御父伊邪那岐大神の伊邪那美大神と。御妹の御
親睦の篤くまじ。坂古止くを渡り賜ひて。御禊の時。幽
そ。此御むつびの御身を離。幸坐。思ほし免せる
き契有りて。むとを。御母の。来。人民の天折。事有し
故。夜見国の惡氣。此は。御母の。説。此大神の御頭玉を
賜。又旧友なる。常盤井嚴戈。説。此大神の御頭玉を
賜。りけむ坂傳。予は漏しある。又。大神の御頭玉を

賜ふも。実を彼国ある御母の命よりも。愈はしく思ふ。呼聞
え給。りけむ坂傳。予は漏しある。又。大神の御頭玉を

記傳小。凡て世間の有さま。代々時々小。吉善事。凶惡事。移
移さ小。移さもてゆく理も。大きか。小。さき。天下小關
と。民草の身。く。此。神代の始の趣。依るも
の。小事。い。多。は。悉。小。此。神代の始の趣。依るも
此。あり。其理の趣も。女男大神の。美斗能麻具波比より始ま
て。嶋国諸の神。多。ちを生坐し。今如此三柱。貴御子神小。分
任し賜予ふまで小。皆備をれり。其。美斗の。ほぐさひ
ありて。よ。り。国。神。生坐るまでは。皆吉善あるを。初め
小。如。男の御言。舉。此。先。後の。違。り。火神の生坐る小。因。て。火
し。凶。惡の根。さ。し。と。や。い。ま。ま。し。火神の生坐る小。因。て。火
世。中。れ。用。を。お。け。も。成。坐。系。神。と。ち。も。大。功。成。し。終。ふ。さ。れ

此大神の生ませ御母神に神避坐しは世の凶惡事此
始れり。火神を如此吉と凶と兼これ此神の生坐るは
始れり。吉より凶に移る隆なり。火を大用をかせども又物
と依り死を忌こすも此の理なり。かくて夜見国を。かく凶惡は因
て。女神の移り往て。これ正しく吉よ。永く止坐国あるが故
小。世間れ凶惡の歸止る處小して。又世間の凶惡れ出來る
處なり。ちて男神を。彼国に追往て。まぐる小凶惡は觸とす
するは。世間おぼて凶惡は移るなり。かば天照大神の
刺隱らし。事又後世小天下乱れ小乱れし時何れと皆
此理より。抑男神を物を成し小成し給ひて。始終皆
て善神あり。然れども中脚は。いさく。此穢惡小觸給
るは。世中のさま善き中も必いさく。此穢惡小觸給
てハ。えあり。ちれど男神を。速く顯国小還り坐す。御禊く
ぬ趣あり。

まふ。是凶惡より吉善小移る為小して。世中凶惡を直し
て。吉善事を行ふべき人の道也。よれ理は因れり。
其時小。先禍津日神に成出坐せるも。全彼夜見国の穢惡小
因るを。其穢惡は被ひ清免直して。方小直し給ふ時は當
豆能賣神成生せり。此二柱貴御子神の成出坐て。終り天照
大御神の。高天原坂所知看ひる。又全吉善小復れる小て。ち
あはれ此大神に。須佐之男命の荒び。得堪と。まは。志
むらくは。障ら。事もあり。世中。大乱。大逆事も。
必かくて。い。理。其本を。皆夜見の凶惡より出
るなり。然れども。大御光を。扱ひ。障られ。は。賜。程れ
く。吉善小立復り。又。明。無窮小。世を。御照し。坐。ま。し
て。皇御孫命の。此。天下を。所知。看。皇。統。を。千。万。世。の。末。ま。て
小。動。き。ぬ。此。ぞ。こ。れ。世。間。の。何。れ。も。趣。あり。々。る。古。今。治。乱
は。え。ぬ。此。ぞ。こ。れ。世。間。の。何。れ。も。趣。あり。々。る。古。今。治。乱
あ。の。え。ぬ。万。の。理。を。悉。く。此。ち。ま。ば。此。次。第。の。趣。を。熟。く。味。ひ
上。件。の。趣。小。よ。れ。こ。と。を。り。

て。世間のある状。何事も吉善とあり。凶惡を生し。二柱神諸神
吉善小よりて。如神の神避坐凶惡を出来れり。何事凶惡
もみあかくの如く。凶惡の吉善よりわこるも。伊那岐命夜見の穢り觸賜る。凶
と。吉善を生し。伊那岐命夜見の穢り觸賜る。凶
は成出坐せれ。何事もみあかくの如く。吉善を凶惡よりお
こるも。伏執。○玄道云。漢国小老子の語り。禍兮福所倚
福兮禍所伏。孰知其極。其無正邪。正復為奇。美復為妖。民之迷
其日固已久矣。易の繫辭傳。安而不忘危。存而不忘亡。治而不
忘亂。是以身安而國家可保。何くれや。皆此の眞
理。小合へる言。互ふ。理は。皆此の眞
生死の一日の夜晝。一年は春秋。何るも。此趣ふ。世中小い。吉
善事の。みあかく。凶惡事も。無くて。え。何ら。世中小い。吉
玄道云。万葉集。ある長歌。天地の遠き始め。世中を常
た。照月も。盈加。げ。つぎ。あ。ひ。き。ふ。れ。天の原。ゆり。け。見。と
ば。照月も。盈加。げ。つぎ。あ。ひ。き。ふ。れ。天の原。ゆり。け。見。と
花さ。た。ふ。ひ。秋。つ。げ。ど。露。霜。負。ひ。て。風。ま。じ。る。を。み。ぢ。散。り

け。見。え。如。く。遊。水。止。ら。ぬ。如。く。常。も。お。く。う。つ。ろ。ひ。吹。風
の。見。え。如。く。遊。水。止。ら。ぬ。如。く。常。も。お。く。う。つ。ろ。ひ。吹。風
れ。ば。庭。と。み。流。る。涙。留。め。ぬ。つ。も。あ。る。は。世。間。の。う
れ。ば。庭。と。み。流。る。涙。留。め。ぬ。つ。も。あ。る。は。世。間。の。う
つ。そ。へ。又。志。う。凶。惡。を。何。も。終。り。吉。善。小。勝。事。何。と。な。り。ふ。
つ。そ。へ。又。志。う。凶。惡。を。何。も。終。り。吉。善。小。勝。事。何。と。な。り。ふ。
理。を。知。る。は。く。加。の。女。神。此。頭。国。の。人。草。坂。一。日。小。千。人。殺
理。を。知。る。は。く。加。の。女。神。此。頭。国。の。人。草。坂。一。日。小。千。人。殺
し。給。ふ。こ。れ。あ。り。後。小。須。佐。之。男。命。此。荒。び。賜。ふ。小。因。て。天。照
し。給。ふ。こ。れ。あ。り。後。小。須。佐。之。男。命。此。荒。び。賜。ふ。小。因。て。天。照
大。御。神。天。石。屋。又。隱。ら。せ。給。へ。ど。程。か。く。又。出。坐。し。て。永。く
大。御。神。天。石。屋。又。隱。ら。せ。給。へ。ど。程。か。く。又。出。坐。し。て。永。く
命。を。逐。れ。給。ふ。此。理。を。知。り。奇。き。う。を。靈。い。た。の。も。妙。か
命。を。逐。れ。給。ふ。此。理。を。知。り。奇。き。う。を。靈。い。た。の。も。妙。か
行。ふ。は。き。理。を。も。知。り。奇。き。う。を。靈。い。た。の。も。妙。か
行。ふ。は。き。理。を。も。知。り。奇。き。う。を。靈。い。た。の。も。妙。か
る。か。も。妙。か。る。と。凡。て。世。間。古。今。の。萬。事。此。理。も。亦。こ
る。か。も。妙。か。る。と。凡。て。世。間。古。今。の。萬。事。此。理。も。亦。こ
み。を。つ。み。て。記。せ。れ。ど。其。本。文。中。何。れ。い。と。も。慇。懃。小。尊。き
み。を。つ。み。て。記。せ。れ。ど。其。本。文。中。何。れ。い。と。も。慇。懃。小。尊。き
と。異。なる。を。怪。む。こと。勿。し。也。何。れ。い。と。も。慇。懃。小。尊。き
と。異。なる。を。怪。む。こと。勿。し。也。何。れ。い。と。も。慇。懃。小。尊。き
教。誥。小。か。む。玉。鉾。百。首。小。も。よ。た。こと。小。禍。事。い。ぢ。ぎ。や。が。ふ
教。誥。小。か。む。玉。鉾。百。首。小。も。よ。た。こと。小。禍。事。い。ぢ。ぎ。や。が。ふ

とふ。と此事いれど。世れ中の道。世の中はよぶと禍事往る
とふ。中よどちと。此事成りづる。世も詠れとる。

伊邪那岐大御神を。神功既ふ終賜ひて。御徳も甚高く坐りけ
れど。乃幽宮を。淡路国に造りて。大御靈に留め給ひ。又淡海国
の多賀社にも鎮坐おはりて現御身ふは。高天原より參登坐て。加
比三柱の大御神ふ。復命白し賜ひて。やがて日少宮ふ。無窮よ
留り賜ひき。

淡路国あるは。神名式より。津名郡淡路伊佐奈伎神社。名神と
載され。一宮記より多賀社といひ。或も天地大明神ともあり。又
履中天皇の五年。允恭天皇の十四年に紀。ちどふを見え賜

ひて名高き御事なり。偕此に理命に室とを金玉瑠璃宮と
も云て。何国の他。仙ふまれ。此神府に詣りて。長生久視の生縁
を賜はる。神真塚の御定のよし。赤縣大古傳ふ委く見ゆ。淡
海国あるは。式ふ。大上郡多何神社二座とあり。是乎世に命
神なりと申傳ふ。彼国の童謡よ。伊勢へ七度。熊野へ三度。御
多賀様へは月參りやも。伊勢へ參らむ。御多賀へ參れ。おひ
せかむの。子トや孫トや。とも謳ふにやぞ。おほ此大神に
宮を。神宮を始め。諸国數多有あり。日少宮とは。即天上ふ在
る宮の名ふれど。漢土なる。玄家ども此。古説に因るふ。天皇
氏。地皇氏を申はる。此二柱の大神等の御事申志しふて。

已く古事記の序に。二靈を何事も。天皇地皇此一名也。天靈
地靈ともいふなり。かく載されし事。それ二皇也。世
界故造立し訖て。後よは。北辰星小隱身し賜ふてぬ。古傳あ
り。五行大義小。甘石星經かど小據りて。天地初起。即生天皇
以木德王治紫微宮。爲天皇大帝。本秉万神圖。五帝之尊祖也。
はと周禮孔疏小。昊天上帝。謂天皇大帝。北辰之星也。といひ。
老子中經小。无極大道君者。皇天上帝。北辰中央星也。とも稱
し。五帝及万神。まゝ蒼生此尊祖小て。命數はも主宰し給ひ
し由。詩の含神霧。春秋元命苞かど見え。此大神等の惟神
小行ひ給ふ道也。天道といひ。其道を万物の奥也稱ふ。はて

我が上代小も。此大神等を。天帝及昊天也。皇天上帝とも。
稱奉り賜ひし事とぬ也。委しく赤縣太古傳。天柱五嶽考。王
禰小見え。天竺小は。十二天餞軌。まゝ因明論かど。伊邪那
天と摩醯首羅也。全神とせしは。皇産靈大神と。伊邪那岐大
神の御故事也。混じて傳奉れること。樓炭經かど小。又半月
毎の八日。十四日。十五日也。三齋といひ。八日小。四天王使者
をして。世間故按行し。万民此中小。父母り孝順也。長老小敬
事也。淨修齋戒して。万窮乏を濟ふ者何りやと。見せしむる
小。復命一々甚少といふは。甚く憂る。若有りといへど。是故
歡ぬ。十四日小太子をして。はと如此觀察しむ。十五日よは。

四天王躬下て。按行して。忉利天より登りて。天帝小世の衆生不善多しや白せむ。天帝及諸天聞て。諸天衆減ト。首羅衆を増さむとて。憂悩爲し。世人善行者多と白せば。諸天衆減て。脩羅衆を減さむとて。歡ぶとし見え。十二天錢軌り。天帝釋者。地居之主。注記衆生所作善惡。と有る共小。眞古説の存る小て。此大神は御事。傳奉れる由。印度藏志。鎔造化育論。かど小委し。因て見べし。又三月三日小比く奈遊といふも。仙家よて。此大神を祀るが。世小傳りし由。仙境異聞小見え。ひいを遊びといふ事も。釋日本紀。更小て。齋宮女御集。中務集。源氏物語。紅葉賀卷小見え。るれど。尤

ふるき事小ぞ有るけり。

かくて。古事記の表文。二靈群品は祖や爲賜ふと見え。万葉集。いば子とて。むをわざかせと。天地の固めし国ぞ。倭嶋根と。九條基家公の歌。神こそは。野をも山を。作りかけ。人り實に。道はぬえとて。玉鉾百首。二柱御祖は神ぞ。玉鉾の世は中の道。はじめるは。天地のそきへ。極み。はぎぬやも。御国小増して。と。た国。や。あるは。能く察ふべし。

○御宇介比ま。須佐之男大神の御子神等のおも。速須佐之男大神の。天に国り。參上。坐し時。神性のい。荒く。健く坐し。故り。国土皆震。海河悉く。鳴响。う。ば。天照大御神。元

と。加れ御性の荒く。いぶり小まして。人民は多く傷をれし
事成し。聞召たきば。甚く聞驚くせ給ひて。必む我が御国を奪
賜むむとの。御心からむを。疑をせ給ひて。假小男子の御貌と
成らせ賜ひ。健き御装ひを為賜ひて。待問をせ賜ひ。天の安河
を隔る。御宇介比ありし時。天照大御神。よび速須佐之男。大
神。十拳の劔。乞度して。三段小打折る。天の眞名井。振滌
ぎて。吹き棄坐る。御氣噴の狭霧。小成坐る。神の御名字多紀理
毘賣命と申し。次小狹依毘賣命。次。多岐都比賣命。凡て三柱
の女神生ましき。宇介比も。凡て事此眞倭。或を成否。まよ善惡
吉凶を。皇神等。請自して。一方は定むる時
小用ふる方。古書小誓。誓と盟。誓或をト。占とも。請或を祈
禱の字を用ひし由。古史傳。因て見るを。

此三柱大神也。後小天降。坐して。筑前国を。宗像郡に坐
して。宗像大神也。申し。豊前国宇佐嶋小も。昔より鎮坐して
遙後聖武天皇御代頃。御託宣詰ありて。八幡大御神と。全
宮處小大坐し。此より八幡宮也。申せば。此大神と。應神天皇。
及神功皇后を。必ば齋奉る。成れりけり。かくて皆
神徳盛。小大坐。宗像大神也。大和国及京華。及諸国小
も鎮まし。はと市姫神と。稱奉る。八幡大御神を。まよ孝謙
天皇也。天平勝宝元年。奈良京に遷奉る。乃と全し御代り。
五畿七道小付て。一道小一所。を請奉られ。清和天皇也。
貞觀元年。山城国雄徳山小請奉り賜ひ。共り天津日嗣也。

守護と賜ふはも。谷川士清の説は如く。職として。此時の御
宇介比の道理小因ふ御おと。窺ひ奉られ。まゝ三柱を兼
ては。道主貴命とも。須勢理比賣命とも申し奉り。皇国のみ
あはべ。西土小ても。天妃神を申して。海上に守り給ふよし。
云傳りて敬奉る。此の大神あるべし事。古史傳。まゝ日本
紀通證。余の神典翼小。云て就て見へし。因小云。八幡大御神は。
弓矢神とも。源氏比氏神とも崇奉ふとは。中院源通秀公
記小。兼俱卿の説は擧て。凡そ源氏神以平野爲正也。於八幡
宮。清和源氏。義家以來事也。往古以八幡爲氏神之條。不可有
所見とあるは引て。そは始やせふ説もあれど。そは尊卑分

脈神皇正統録小。義家父頼義朝臣。參詣八幡宗廟。得三寸之
劔。蒙感夢之由。且晨於其枕牀。得一柄小劔。云々自蒙彼靈夢。
妻室懷胎。即令出生男子。今義家朝臣是也。や何ま。理か
き小いあはぬど。早く桓武天皇比延暦の頃。坂上田村麻
呂卿天勅を受て。東夷征伐の時小。陸奥国伊澤郡ある。鎮守
府小て。八幡宮を勸請奉られて。弓箭鞭ハチかどは。納め置れし
由。東鑑に見え。頼義朝臣の謂は前九年比役。石清水大
神を祈請申されしかどは。思合はまば。彼義家朝臣。始る
小を何はべて。弓矢神とて崇奉るを。猶古に御代とて此
事と聞えある。さて或説り。親王諸王を。かは神宮に崇奉

賜ふを。已に姓改賜ひたり。此三柱女神を祭坐系例ありと云ふるは。彼漢国の禮小付。言出たり尚と考ふは。次。速須佐之男大神。天照太御神の。八尺勾瓊の五百津比御紡の珠を乞度して。天の眞名井小振滌ぎて。吹棄坐系。御伊吹の狹霧。男御子生坐せり。爰は興言して。正哉我勝ぬと詔賜ひき。故。それ御子の御名を。正哉吾勝と速日天之忍穗耳命を申奉る。次小成坐系。天之穗日命。次天津日子根命。次小活津日子根命。次小熊野久須毘命。相次て。凡五柱の男神生坐せり。加れ。小。天照大御神始め。速須佐之男大神の。固と悪き御意无きあや。知看しぬ。こゝに詔するは。此の後

小生坐系五柱の男子を。物實朕の物に因て。所成させり。故自ら朕の御子あり。先小生坐系。三柱比賣御子。物實汝の物は因りて成坐せり。乃汝の御子あり。詔別賜たり。此五柱比古御子の中。天之忍穗耳命。天照大御神。特小愛しみまして。常に御腋小抱き。育奉賜たり。腋子也。稱奉たり。稚子といふあや。此小昉ふと。おき今上天皇の。百二十七代の御大祖に御坐して。山城国宇治の許波多社小坐し。豊前国ある香春峰。伊豆国走湯山。おとも鎮坐にたり。

神名式。全国宇治郡許波多神社三座。並大月と見え。風土記小も。木幡社。天忍穗長根命。また後風土記小も。木幡山

は在木幡里と云。有神所祭。正哉吾勝く速日天忍穗耳尊也
少記し。萬葉集り。山城の木幡比里小。馬を何れど。云く。世繼
物語り。博雅三位。木幡と云。目於ぶれぬる法師の。世小
あやしげふる小。琵琶を習ひ給ひけるをいひ。大江匡衡朝
臣の書とし。木幡寺の鐘銘小。木幡山者。云く。四方似城。百里
不絶。元慶太政大臣昭宣公。相地之宜。永爲一門埋骨之處。爾
來氏族彌廣。子孫繁昌。かど見え。又同式内小豊前国田河郡。
忍骨神社也。あまも。仁明天皇紀。まとかれ国の風土記。最澄
本高僧傳。元亨釋書。小も。載て。共は名高き事を。並は神典翼に注す。
はと云。此四柱の御子神等。及御裔の事ども。又比古神小は。

大御神を。御父ミチの如く。須佐之男。大神は。御母の如く。比賣神
小。大御神を御母に如く。須佐之男。大神ぞ。御父の如き由。
まよ此坂太平記を始め。腐儒ら。御交合小依系。おどいふ
は。ゆゑに妄説ミヤゴト小。元貴タケ比皇神等のくはしき。御徳をえ
知らぬ。愚癡心シレかふと。又かくて。此段を。空虚語とある
論等トナリ記傳。古史傳シキアキ小説シキアキを。如し。はと此を河内国。明
系ツバネ或法師の。はる俗説を。逐一ツバネ小舉て。佛家ブツカよては四生シヨウちふ
説シヤク立る故小。あゝ。系御事をし疑ひぬと。は。委く論ずる
は。漢さへ。おれを。腐儒小。遺り立勝りスガレト。方外ホウガイの徒小も
愛ミき者モノを有る也。時々思ひ出る。あゝ。小あむ。は。あゝ。牙ど

かの四生やいふ事も。さよぞ珍しき事は非ること。印度
藏志あり。論ともあるが如し。

須佐之男大神天上小留まはし時。大御神の大御使として。葦原
中国形る豊宇介神の御許小下幸て。食物乞せ賜ふ時。豊
宇介比賣命。其の御身より。種々此多米の物を。何まゝと取出し
て奉ける小。其所爲を立窺ひ給ひて。穢き物奉ふと思召して。
甚く御怒坐し。御劔抜て。宇氣母智神を撃殺して。復命し
賜ふ大御神甚く御怒坐し。暫時の間を。隔離て住坐け
るやぞ。かくて後小。大御神。まゝ天熊之大人といふ神を遣
て。見せ賜ふ。宇氣母智神を。實小死に坐して。其御身より稻

を始て。五穀。よき牛馬。蠶桑。木也。成り在りし故。悉く取持來
て奉りしむ。大御神喜び賜ひて。是物を。宇氣母智神に。青人
草の食むて。活くはき物ぞと詔ひ給ひ。天邑君をばどめて。そ
れ稻種。始めて天狭田也。長田小殖させ賜ふ。其秋垂穂。八
握小志ある茂る。いとよく實のまき。又天香山小。桑の木は
殖て。蠶を養ひ。蠶もて。絲を抽て。機織らせ給ふ。人草は衣
物食物を得し。此時小始まれ也。

大神の勅使小幸行ふ。これ古代小の重き勅使。皇太子
や。は皇子等を遣され。始めや。いふ也。又始めて降
り。丹

波国の與謝郡ふるむと云々。別記せる物あり。又大御神の
五穀種どもを御覽して。此物どもは青人草の喰て活くべ
き物ぞと詔へるふぞ。恐りれども。即ち人民を愛み育み賜る。
大御心は窺測し奉らゆ。又おれ天下に人民を安樂し豊饒
にあらせむと。御政の大本なること。豊宇介神の伊勢外
宮を更なり。大和国に廣瀨社。山城国に稻荷社と始めて。數
處小坐し事おど。古史傳に始免。何くれの書ども小説著されぬ
るが如し。王銚百首。天てし。神の御民ぞ。御民らと。おほ
る小とれ。何づくれる人。物つくゆ。民を御財作らば。い
ふせむとの。民苦しむる。皇神の。先づ。思ほは。人草ぞ。世に

中人あしくまれば。は。かの荒祭宮の。大御神に
詔りて受坐すの御誨語も。天下四方人民を。皇大神宮の御
財ありと。詔りて小符あり。貴に教託しおむ。まゝ佐藤信淵
の説り。凡人世日用諸物。大抵皆出於豊受姫之遺骸。故天照
大神之煦育擁護。豊受大神之衣食保養。所謂天地大父母也。
穀會蔬菜之芳羞。鮮肉嘉魚之厚味。新葛陳酒之醇良。紗綾錦
繡之輕煖。縹緋皮布之清涼。春英秋華之美艷。白馬青牛之安
乘。奇南蘭麝之馥郁。時禽候蟲之好音。身體皮膚之所觸。耳目
口鼻所感。無有不好妙者。矧且有男女合歡之愉快。與兒孫翁
和之湛樂也。我人受斯賚。仰事父母。俯養妻孥。保續性命。皆賴

兩大神維持保育之大德也。まゝ土石草木活物之於人世。或爲倉物衣類。或爲宮室器械。或爲刀鎗鍋釜。或爲甕瓶缸壺。或爲玩好藥物。或荷重致遠。皆爲不可一日無之要。此三類備而後人民可以得滋息也。古之明王云々。所以畏上天之明威。而經營国土也。經国土。審度數。察氣候。利地勢。畲田畑。拓山澤。正疆界。理水陸。備早潦者。所以宜達四資之良能。述續群神之勲業也。興物產。精製造。饒物貨。便運輸。校輕重。遷有無。通互市。富邦內者。所以擴充群神之功業。贊繼鎔造之神意也。皇祖天神之經始天地也。欲使人脩道積德。以爲神聖。故發育萬物。以便于脩道矣。然不脩其業。而徒費其資。則得無上天之震

怒乎ともいひ。又治国の要も。三事六府也。精く版圖を製り。氣候を審小し。土性明辨するを。三事とし。水土平げ。農業を講じ。山澤を開き。河海を理め。百工を興し。商賣を轄む。此を六府といふなど。録せし物あるを。共り然る説どもあり。

あゝ小須佐之男大神と。御宇介比の勝爽さびの上。のれ穢物を看行し。かき甚く御荒び坐り。因て。大御神も暫時を。えたへ賜て。びて。天の岩屋戸。小閉籠。賜ひし。ふぞ。天津国も。萬国も。皆常闇を成りし故。小皇産靈大神を始め奉りて。八百萬神等も。千々小御心を盡させ賜ひて。終り大御神を招出し奉りて。新宮

小ませ奉り。岩屋戸此事は甚繁く數十葉あらざれば、盡し難け
副居移ひし小て、御宇介比は勝給る上は、惡穢は惡みまし
て、猛び荒む移ふは、何れは二柱也も、惡神小坐さるあり、そ
を本居翁の、惡神と為られしは、いふく違ふは、此も天照に
大御神より、千てや、神は荒むは、かしく、此と詠れ
しを、実り然。はて須佐之男、大神り、千座置戸の被物を科せ奉
る。神逐小逐ひ下し奉れり。此時小大神。そは御子五十猛神、故
帥賜ひて、天の壁立極み、百八十国也。天翔り国翔り、御覽
巡坐して、後小新羅小降賜ひ。土船故造り。其小乗まして、出
雲国形る。安來れ埃の川上は、還り行幸して、朕御心多、安く平
安に成ぬと詠ひ。まは漢国の嶋小い。金銀あり。吾兒は御以国
小浮寶、何くばて、佳りらじと詠ひて。御髻故抜て散り賜ふは。

それ杉也成り。御胸毛故散し給ふ。檜木と成り。尻毛は披也
成り。眉毛は樟と成り。かくて杉也樟と。浮寶小為るは、し
也詔ひ。まは噉ふべき八十木種も、皆播生し賜ひき。かく、木を
生し賜ふ
此御徳は因て、久志御毛奴命と申奉り。まは世に船ある事
此小初て起れり。はて此ぞ其御子神等の、五国故、御され、ま
と神功皇后の、韓国を征伐。はて加は。足摩乳手摩乳命の爲り。
給ふる根元小を、何り。はて加は。足摩乳手摩乳命の爲り。
八侯の遠呂智故斬り。思ほえん。天村雲の神劍を得給ひ。宮造
る。地故。出雲国小求給ひて。須賀の地小到坐て。朕が御心。
須賀須賀志也詔賜ひて。そこ小宮を作し賜ふ。此宮作らし
し時、其地より雲立上りけは、大御うと故。やうを立つ。い
づも八重が地。故り。やへ垣つく。故。そは八重が地を、也

詠ませ給ふ。此三十一字此歌の始免か。荒魂の御行也甚
しを。此御祓の御功不因。かく御心清く明く成坐て。此
御父大神の事寄し賜ひし。天下も造固めてむと思はし。此
此時り世界万国も巡覽して。御子よと御孫成して。此を事
認し。めむを為給ひし。御歌の解等も。記傳古史傳不委し。就
て見。はて稲田比賣命を。大后也定賜ひ。須賀宮に住ませ賜ひ
て。産しめ給ふ。御子此御名を。八嶋士奴美神也申し。此神の
御子也。天の冬衣神也申し。此神刺国大の神也。御女刺国若比
賣命小。娶まして。生し給ふ。御子を。大国主大神也申し。并
此の御名は。し。ま。と。御庶。おは大神の。御規模廣遠くて。大地也
兄弟八十神有し。や。と。造訖賜ふる。おは。と。造。小看を。な。し。定めて。と。須佐之男
大神也。遂小後。此大命の隨小。夜見国へ遷り。幸しけり。

おは大神也。出雲国意宇郡。熊野大社。はと紀伊国牟婁
郡。熊野神社。小も坐せり。播磨国の廣峰社より遷奉れる。皇
祀奉れる社也。故舉しが。琉球国小ても。波上之社。洋之
社。尸棄那之社。普天間之社。末吉之社と申は。此大神小坐
い。荒井君美。南嶋志。小い。尚委く。古史傳。牛頭
天王曆神辨。ま。余。神典翼。因て。見。不。は。と。赤縣小
て。人皇氏也。申して。雲祇車。小乘り。六提羽。り。駕して。賜谷よ
と。出。彼。国を。九州。小分。九人。也。分身して。各一州。居て。
三千三百歳の間。天下。治。賜ふ。と。い。ひ。傳。ふ。は。此。大神
小。ま。以。事。赤縣。大古。傳。小。説。を。天竺。も。睽。摩。羅。王。ま。と。阿。修
羅。王。と。い。ふ。は。此。大神。此。夜。見。を。治。看。し。又。御。名。也。八。束。髪。速
佐。須。良。命。と。申。奉。り。し。也。大国主。大神の。御上。と。混。り。し。と。
傳。り。し。也。印度。藏。志。に。説。れ。し。也。見。て。悟。る。べ。し。
かくて。大国主。神也。八十神等の難也。夜見国小避賜ひて。加
須佐之男。大神の御女。須勢理比賣命を。大后也。生太刀。生弓

矢等坂得まして。歸坐る時。大神ともづ平坂まで。追來はし
て。大命もて。天下知。看以大道坂。教子賜ひ。大国主神は。その御
稜威を蒙らしして。八十神坂伏いせ。天下を掃む清め。皇国より
肇て。国作給ひし時。小皇産靈大神の御子。少彦名大神と申さ
る。是より先。小外国より天降坐て。国造る在るに依來坐て。御
兄弟を成りて。心を親び力坂戮て。国土を經營固免賜ひ。青人
草坂助け救む為。小を。医薬方術。まよ薬湯の法坂も定め。酒を
も醸り給り。是を以て天下に百姓やも。今小その恩頼坂蒙
りて。皆效驗有り。

師説云。此二神かく国民の事。小いとしみ給りる故。萬

葉の古歌。小事物の始免坂。此神多ち小係て。大名牟遲。少彦
名の神世より云く。大かむぢ。少彦名の神。おとは。名づけ初
々め。云く。天汝。少御神。此作らせ。妹背の山を云く。おど詠
多り。此多天下に人民。この二神の御恩頼を蒙り。辱く思ひ
奉れる故。其意は。予を。詠傳り多るかり。又石見国の志都
こと。伊豫国。伊豆国を始めて。温泉坂定め
給ひし。おとを。古史傳等。よ委し。因て見るべし。

少彦小。大国主大神。あるとき。少彦名大神。小。吾等が造れる国。
いので善成せりや云む。やと詔ふ。小。少彦名命。或も成せり處
も有り。或も成ざり處を。ありとど詔ひけり。

師説云。大国主神の御語。此意を。我らが造る。此八嶋国

と。おほまど善く成竟とりとは云がごとし。其成のぬる城。待のぬ給ふ御言おを。少彦名神の御答は。意は。然を宣ふ。此、八嶋国を。或は成せる處と。或は成ざは處も有る。宣ひて。外国くと。都小成らげの處さへ多あり。宣ふ意は。含免あり。其たかく宣へ。後。常世国小渡り給ふ。小て。知られと。神代紀小。此、談也。蓋有幽深之致焉。と有るは。実然ふ言ふぞ有る。

かくて後。少彦名命を。伯耆国に到。坐して。遂小常世国に渡り賜ひけり。これ大神を。その国ある手間嶋。まゝ紀国の粟嶋。まゝ常陸国の大洗磯前社。酒列磯前社。伊豫国の御泉社等。

鎮坐せ。京師ある。五條天神社。おと鞍馬。鞍明神社。おと小を。坐しけり。

神功皇太后は御歌。よの御酒を。我のみきあらは。久志の神。常世ういまは。石立は。少名御神の。云々と詠坐る如く。後。世まで。外国を造固。おと坐る城。文徳天皇は。齋衡三年十二月小。常陸国鹿嶋郡。神體を兩の恠石小託。歸來まして。はて御誨語。我を大名持。少名持命。昔此は国は造り訖。東海小去往。多とと。今はと民を濟をむと。更小來り歸れり。や詔。こと二柱大神の。右小見えし。大洗磯前社。酒列磯前社。鎮ませる縁也。先師は説。常世国を。本神の住坐は幽境。常住不變の義。小いふと起。

現在せる外国に於ても。此より見えしる所也。泛く稱ふ言也
は成りしなり。又右の神詔小因る。大名持神も。常世国
渡り給ひてぞ有る。神世の傳を記留しは事此いと舊き
由り開題記し委曲小辨する如く
かゝるを其古記をも古事記小撰録して奏進れる和銅五
年より此神等此帰來ませる齋衛三年まで百四十五年
り少彦名神の常世国に渡坐る古傳に記留る時。後世小
加ふる事此有らむと誰の知らむ此一事を以ても神世
の傳に正実あるはて少彦名神の渡り給ふる。幽頭い
事を辨すつぎし。はて少彦名神の渡り給ふる。幽頭い
ど分れざは。以前此事ある故小。其傳り頭世小も傳はり
れ也。大名持神の渡り給ふるは。幽頭分て幽世より往坐
るの故。齋衛三年に御託なくは。頭世に人の争ひ知む
と説き。玉鉞百首小。さひびるや。常世のからに。八十国を少

毘古那ぞ。造らせりむと詠き。記傳小も。其説を記れ
ど。此神のみ小非び。實小を伊邪那岐。伊邪那美神。よ
須佐之男神。及び大國主神も。渡り坐して。開闢し給ひ
てぞ有けり。猶委く説示され又漢国にては。東華大神。青
童君と。青眞小童君。はと泰乙小子。泰乙元君。ま
と扁鵲をと申し。三才に本義。医藥養神。金丹の眞術を傳
りし。其形嬰孩の如き神眞ありや傳り。天竺にては。梵
天子。よと鳩摩羅天。譯て童子天。や申て。婆羅門小傳
る。四吠陀論の諸法術の本を。悉く此大神より傳りし
や。又此二柱大神を。外国の事を執持賜む。そは皇朝小
よる。仕奉らせ給ふむと此神。

慮あるおやも。上小い子。皇太后の御歌を證して。委く論

それあり。委くは。聖御柱。太古傳。印
度藏志。因て。見る。後し。

あゝ小。大国主大神も。宇都の御子。言代主大神を初奉りて。百
八十一神の御子ましゝを。四方萬国小分遣らし。又御親ら
を巡行し。遂小伊邪那岐大神の初。小須佐之男大神も。言寄
し賜ひし如く。斯国地也。悉よ於くり訖おして。お此大地上の。
大国主の大神と云。成賜りて。大神の。天下諸国。亦も統御し。
御世え。いと久遠ありし由は。弘
仁歴運記考り。言代主。神小も。御子。御孫。曾孫。玄孫。形ぞ。數おは
して。十七世。此神世と。申せる。傳りも。有許を。れ。其親族を。最
多よ。坐し。其皆。大国主。大神の。功績を。助け奉り。国造りの。神業
を。更あり。謂も。經世の。術。治民の。用。ある。事物。ども。皆。此。大神
の。御世。り。制作。し。給ひ。大。抵。世。此。風俗。を。赤縣。の。唐虞。以前。此。趣
小ぞ。開け。あり。々。る。形。ぞ。尚。委。く。説。きたる。字。見て。悟。る。後。し。

はて須佐之男大神の。再あび天照大御神小御暇請奉むとして。高天

原小參登賜ひし時。神議を坐て。皇美麻命天降し奉りて。此

大地の大君主と。爲むや定賜ひし因て。此を古史傳に。高皇産
就て。見る。後し。

靈大神。天照大御神の。大御使として。天穗日神。相次て。武甕槌

神。經津主神等也。天降し賜ひて。大国主大神も。いと懇懃れる。

御諭詔ありし。ば。我が子言代主神も。問ひて。報命申さむや

て。御使也。三津崎に鳥遊漁して。いまし所。遣らし。問せ賜

ひ多小。言代主神畏し。天津神の御命は。まふく。此国を天神

の御子は。奉り給り。吾も御詔を。違ひ奉らじ。と。白せし。唯。一言

小宣放ちも。果び。そ。此。乘坐る。船を。ふみ。傾けて。天逆手也。青柴

垣小拍成てぞ隱賜ひける。此大神也。大和国に於る。高市御縣社。
まゝ宇奈堤社。津国に三嶋鴨社。伊豆の三嶋社等小坐せ。尚本
系八神の中も坐して。天皇のこよみ御守神也。又そ
の御名も言は信立賜へるより負坐し。於天事代於虛事代
云くと自詔ひ。まゝと万葉集。想をぬ。思ふといは。眞鳥住
む。卯名手の杜。此神し。知さむと詠る。引て。古人の言語。小。虛
偽。お。由を。此大神。小誓ひしこと。か。く。て。大國主大神也。其大
詔のまゝ。此大地をば。永久。皇美麻命。讓。奉坐。出
雲。大社也。常宮と定め賜ひて。堅石。常磐。隱賜。ま。ま。小。
皇産靈大神。それいと高く貴き。大功績。褒賞賜ひて。幽冥政
を。永久小治看。以。る。言。依。し。賜。ひ。き。六人部是香説。幽冥政
看。し。重。く。貴。き。御。政。か。る。故。そ。れ。大。功。績。は。答。賜。是。故。以。て。天
ふ。と。て。此。を。依。奉。賜。ふ。由。説。り。ゆ。を。有。る。を。く。や。

神の御子。我皇美麻命を。月日や共。と。お。し。小。顯。明。政。を。聞
食。し。大。國。主。大。神。を。天。地。の。む。と。永。く。幽。冥。政。を。治。看。を。ま。ま。と
成。り。是。時。と。り。ぞ。幽。顯。は。じ。免。て。別。れ。る。ゆ。け。る。さ。れ。ど。玉。鉾。百
首。あ。ら。を。小。此。事。を。大。皇。神。事。を。大。國。主。の。神。に。御。あ。く。ろ。と
何。ゆ。此。時。よ。り。天。國。と。り。天。穗。日。命。の。御。子。天。夷。照。命。故。以。て。出
雲。大。社。也。重。く。い。ち。き。祭。ら。せ。給。ひ。天。國。小。も。諸。部。故。定。め。て。
厚。く。祭。ら。せ。給。ふ。と。成。れ。り。偕。其。和。魂。大。物。主。神。也。荒。魂。大。國。魂。命。ま
ゝ。太。子。事。代。主。神。三。柱。大。神。を。む。お。れ。八。百。万。神。等。故。天。高。市。小。
神。集。り。集。り。て。高。天。原。を。率。て。上。坐。し。て。彼。大。詔。に。重。き。誠。款。を
奏。賜。ひ。て。皇。産。靈。大。神。い。と。懇。懃。れ。る。大。御。語。何。ゆ。て。御。女。三。穗

津比賣命也。大物主大神の。大后ヲ賜ひて。此、比賣神也。大和国村屋社。駿河国御穂社。丹波国出雲社。まゝに。さていふ。た物知。よまを事。古史傳小説れし。如し。汝を。八百万神也。領て。長。小皇美麻命。御爲小。守護ヲ奉れ。中詔。予。あ。く。大國魂。神も。宇介比賜て。天照大御神也。天原也。悉。治。賜。我。大地皇美麻命也。葦原中国の。八十魂。神を。專。治。賜。我。大地此官也。親。治。む。白。賜。予。也。此、前後の事ども。中。小説。盡史傳等。就て。見。る。也。

是香。説小。此、皇美麻命也。葦原中国の。八十魂。神也。專。治。免。賜。む。と。皇美麻命。御。代。大朝廷。天。神社。小鎮。坐。八百万神の魂を。重。厚。齋。祭。賜。む。此。由。也。

後小神名式。并小官の神名帳。載。れ。る。如。く。天下。此官。社。字。齋。祭。給。ふ。事。の。根。元。也。吾。々。大地。官。治。む。と。奏。し。賜。予。は。也。此、一地球を。總。括。り。て。その。幽冥。政。治。め。賜。む。也。此。義。也。ち。皇。國。の。内。小。鎮。ま。天。神。社。国。神。社。を。祭。祀。給。ふ。也。そ。れ。天。神。地。祇。や。一。地球。万。国。を。守。護。坐。せ。ば。皇。國。小。し。て。祭。給。ふ。也。即。万。国。小。も。涉。る。也。大。國。主。大。神。の。統。御。幽。冥。政。也。直。一。地球。万。国。形。る。蕃。神。等。も。其。御。許。小。參。勤。し。め。賜。ひ。よ。と。御。子。等。の。更。も。蕃。國。に。往。來。賜。ひ。て。其。國。に。幽。冥。係。れる。万。機。の。政。知。看。せ。れ。ば。大。地球。官。を。治。免。む。と。は。奏。し。賜。予。ふ。也。此。則。彼。産。靈。大。神。の。

御言寄の如く。八百萬神は帥て。皇美麻命は御爲す。守護賜
する本義は有るにけり。また大物主大神。及事代主大神等
は。天神御子命の。近き守護神を貢置し。事を申て。此時小
国縣村里り。百八十柱と坐しける御子神あり。及其近親宗
族の神は始免。其領坐す。八十五神等多く坐し。依を皇
国を更ふて。萬国をも領副へ。分遣はし。其国小しても。国
造の功績有る。神等は。靈神はも召出て。其国郡の幽政を
掌しめ。於るに。此ぞ皇国小しては。今世に至るまで。諸国
小鎮坐て。其地々々。其産須那社や。以。權輿小を有ける。又
出雲風土記に。佐香河内谷。小。百八十神等の酒は釀て。百

八十日遊び。讒ツタヘげて解散ハラケましきと。何ふと。此内外。国を分り
遣せ。依期トキの。送別は御宴ある事はも論ひ。外国小も。その土
地小就る。功有りし人の靈神をも。其地は産土神として。幽
府の幽冥政は分掌しめ給ひ。其土小產生る。人種の根元よ
り。顯世も。没後の神靈まで。總て幽小係れる事は。掌らし免
賜ふ事とは。成り於るなりと論ずるも。實小は説れり。此
今約めて引ぬれど。委くはそれ
古道本義傳り因て見るべし。

八十日... 藤原美貞

弟 平直道
門 攝津国 橘元氏
人 伊豫国 藤原美貞
校 全

